

# ジュニアサッカー選手の競技意欲について —中体連とクラブチームを比較して—

藤原 怜(生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)  
指導教員 佐藤 馨

キーワード：競技意欲，街クラブ，中体連

## 1. 緒言

スポーツは「心技体」という言葉があるように、技術的能力や身体的能力だけではなく、心理的な能力も必要とされている。特に競技スポーツにおいては強い精神力が求められ、どんなに高い技術を持っていても精神的に安定していなければ実力を発揮できないと言われている(大嶽, 2003)。競技スポーツにおいて、良い成績を上げるためには「心」「技」「体」のバランスが重要である。本研究では、ジュニアユース年代サッカーの競技意欲について、中体連とクラブチームを比較することを目的とする。

## 2. 研究方法

調査対象は滋賀県大津市にある街クラブと中体連に所属する中学1年生から中学3年生のジュニアユース年代のサッカー選手計54名(街クラブ30名、中体連24名)を対象とした。調査は平成27年12月4日の平日に行った。調査は、練習時に体協競技意欲検査(TSMI)を用いて作成したアンケートを実施し、回収した。なお、アンケートの実施は各学校のグラウンド、クラブチームのミーティングルームや練習グラウンドにおいて、対象者を一同に集め実施し、その場で回収した。回収率は100%であった。分析方法はSPSSによるT検定とクロス集計を用いた。

## 3. 結果および考察

表1は努力志向性、自己コントロール、試合不安、コーチ抗性、コーチ受容、研究心、勝利追求、闘争心に関する競技意欲について、中体連とクラブチームを比較したものである。

全ての項目において有意な差が見られ、努力志向性、自己コントロール、コーチ受容、研究心、勝利追求、闘争心の各項目はクラブチームが上回った。一方で、試合不安、コーチ抗性の項目は、中体連の方が高い値を示した。

ジュニア期にすでに競技意欲の差が見られ

ることから、選手・チーム育成には選手個人への適切な指導や心理的側面を考慮した指導が重要になると思われる。街クラブと中体連の違いとして、中体連は学校教育の中の部活動であり、クラブチームは学校教育の枠から離れサッカー専門の指導を受けている。サッカー専門指導という目的、目標の違いから競技レベルの差がでると考えられている(大嶽 2003)。また、クラブチームでは競技レベルが高い中でレギュラーを勝ち取らないといけないので必然的に闘争心が培われるなどのクラブチーム特有の環境がある。

表1 競技意欲の平均値およびt値

	平均値		t	p
	クラブ	中体連		
努力志向性	3.33	2.35	5.42	0.05
自己コントロール	3.13	2.26	5.28	0.05
試合不安	1.73	2.2	2.95	0.05
コーチ抗性	1.87	2.6	3.56	0.05
コーチ受容	2.99	2.33	4.08	0.05
研究心	2.91	2.19	3.1	0.05
勝利追求	3.28	2.07	6.77	0.05
闘争心	3.5	2.71	3.95	0.05
クラブチーム(n=30), 中体連(n=24)				

## 4. まとめ

ジュニアサッカー選手の心理的競技意欲は、競技レベル、チームの選手構成、指導環境によって異なることが示唆された。

競技力の向上のためには、特に「競技意欲」を高めるべきであることが示唆され、同時に、この年代から高いレベルの経験を積ませ、強い心理的競技能力を養っていくことの重要性も示唆された。今後の課題はジュニアユース年代の選手の競技意欲がどのように発達していくのかという縦断的に調査が必要である。

## 引用参考文献

大嶽真人, 須田芳正, 植田忠生, 石手靖, 依田珠江, 古賀初, 田中博史(2003)「ジュニアユースサッカー選手の心理的競技能力について」体育研究所記要, 1-7